

すなお

令和3年8月号



明治三十九年十月十日

おやのことば
根出しの悪い方へは枝が
枯れる枯れる。根出しの
よい方へは枝が栄える。

先月、葛城の月次祭途中から右の腰が痛くなりましたが、その後兵庫、大阪の講社祭に行かせていただきました。症状はどんどん悪化し、マッサージをしてもらったり、休養を取ったりしましたが、結局教会に帰った二十五日になっても変わらないままでした。

そして、教会に帰ってからは（疲れが出たのだろう）と休んでいましたが、やはり変わらないですし、痛みで夜も眠れないので診察に行くと「带状疱疹」という診断が下され、「ともかくしっかりと食事を摂って安静にするように」との指示でした。この病気は体内の免疫力が低下してくると発症することと、あまり気軽に考えてはいけないうということも分かりました。その後、教会に帰ってからの自粛生活とも重なっているようで、ゆっくりさせていただきました。それから徐々には回復に向かい、今は少しずつ講社祭にも行かせてもらえるようになりました。

そんな中、今回の身上について思案をしてみました。先月のおちばに行くまでの状況を日記で確認してみようと、やっている内容は講社祭、事務作業、教会内の営繕作業、信者さん宅の作業、子供のための準備であつたり様々です。

（次ページへ）

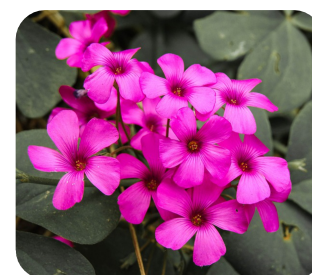
会長

中和大教会創立130周年記念祭 執行 令和3年10月10日(日)

*当日は教会長夫妻、おつとめ奉仕者のみでつとめます

教会ニュース

今月14日、会長祭主のもと田中明さんの40年祭、田中和夫さんの5年祭が自宅においてつとめられました。コロナの影響の為に限られた人数での会となりましたが、御霊様の残された道を振り返り、信仰の元一日を忘れずに通らせていただくことを皆で誓い合いました。



すなお (立教184年8月号)

通巻 No.733
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2021.8.16
責任者 二宮英治



広いところで

田中道則

以前、光が1秒間で地球を7周半するという話をしました。宇宙は広すぎるため、光が1年に進む距離を1光年として地球から星々がどれくらい離れているかを表します。太陽系をはなれ、地球から一番近い恒星まで4.3光年という距離です。

これをもし飛行機のスピードで行くとなると約930万年かかるそうです。単位が桁外れで想像がつきにくいです。ちなみに新幹線だと約3700万年かかるそうです。

一番近い恒星に行くのに現在の人類の技術では遥かおよびません。たまにこの宇宙の単位から物事を考えてみると楽しくもあり、不思議な気分になります。日々小さなことにとらわれず広い心でつとめていきたいです。



欲のほこりをはらって

椿 信代

夫は、私と結婚するまで一人暮らしをしたことがなく家事という家事が全く出来ませんでした。これではこの先大変だと思い結婚前から少しずつ時間をかけて教えていたところ、今ではゴミ出し、洗い物、洗濯物の片付け、炊飯など基本的な家事ができるようになりました。以前に比べると私の負担も大分減り、暮らすのが楽になったのですごく助かっています。

ですが最近、あらかじめ決められていないことに「なんで気づいてくれないの」「今あれをやって欲しいのに」といつの間にか不足ばかり増えている自分がいました。人間というのは欲深く、一度満足してももっともっとと求めてしまうものです。そして求めてばかりいる時は大抵ろくなことになりません。

案の定言い合いになることがあり、その後ふと冷静になった時に自分がいかに求めてばかりだったかを反省しました。むしろできることを着々と増やしてくれている分、夫の方が負担が多くなっているかも？とさえ思う程でした。

欲にまみれた心ほど醜いものはありません。身近な人にこそ「ありがとう」を言葉で伝え、今一度普段の心づかいを見直し、おつとめをつとめ、「欲」のほこりをはらっていきたいと思います。

本当に休んでいないですね。もちろん、急に用事が入ったりすると、それを優先順位の一番にして行きますが、その分段取りが遅れるので夜の間に準備をしたりして、。自分の心を振り返ると一生懸命やっている自分を俯瞰で見ているもう一人の自分がいて（頑張っているな）と自己満足しているのです。でも、身体は限界に近づいている。またもや忘れていているのです。大切なことを。

私の身体は私の物ではありません。かりものののです。全然大切にしています。もちろん、暴飲暴食をしたり、お酒を飲みすぎている訳でもありません。人の為、会社の為とやっている内容は良いことかもしれないですが、それに紛れて無理をすれば身体は悲鳴をあげます。あまりに粗末に扱えば貸してもらえなくなることもあるのです。

「かしの・かりものの理が分かれば信仰の八割分になる」と教えていただきました。まだまだ程遠いですが、そこへ向かって前進します。

「朝づとめのお話」

渡部 与次郎著

7月22日

今日、金原さんの前席で喘息の話が出ました。喘息の人は不足が多いと言いましたが、風邪を引き易いのも喘息と同じで、風邪引きは身びいきで、我が身思案が多くて我が身かわいいの心が強いのですね。

喘息の人は、子供に出なくても孫にいくこともあって、なかなかいんねんは切れ難いものです。喘息の人は前生人を言葉で押えていんねんを積んでいるので、余程言葉で喜ばせて通らないとよくならない。喘息は金不足といって今はよくてもお金に困ってくるので、徳積みをしてつないでいかないとあとで困ります。お金は低いところに集まるから、低くなってやさしい言葉でつなぎをつけていくことです。喘息は言葉でつなぎを切っているから言葉のつなぎもよくしていくことです。息が切れるのも、ちょっとすると風邪を引きやすいのも、肺病も、その他の呼吸器の病気もみな同じで、前生今生真綿で首をしめてきた喘息のいんねんの親戚ですね。見栄っぱりで人のあらを拾う事が上手だから、いんねんを切るためには、人の良いところを見て、良いことは人のせいにし、悪いことは自分のせいにしておさめて、低くなっておわびをして通るようにすることで、いんねんは切れていきます。良いところを見てほめてあげて、また自分がごみ箱になり、悪いことはみな引き受けて、家柄のいんねんが変わるまでやり切っていくことですね。